

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	西成区
学 校 名	大阪市立岸里小学校
学校長名	大無田 信教

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・岸里小学校では、第6学年 61名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

〔国語〕

本校の平均正答率は58%で、市平均正答率67%・全国平均正答率67.2%から約9ポイント下回った。無回答率は市平均3.5%より0.8%高く4.3%であった(全国平均4.8%)。

〔算数〕

本校の平均正答率は62%で、市平均正答率62%・全国平均正答率62.5%とほぼ同水準であった。無回答率も市平均の3.1%と同様の3.1%であった(全国平均3.4%)。

〔児童質問紙〕

「将来の夢や目標を持っている」の項目について、大阪市平均・全国平均を上回る肯定的な回答となっている。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については、大阪市平均・全国平均とほぼ同様の回答となっている。一方、「読書は好きですか」の肯定的回答が大阪市平均・全国平均より約20ポイント低い結果となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項の両方で、全国や市の平均よりも下回った。また、B「書くこと」については、全国や市の正答率も低かったが、本校においても、大きな課題である。

〔算数〕

日常生活の問題を目的に応じて算数的知識を活用して解く「数と計算」「変化と関係」「データの活用」は大阪市・全国と同様に正答率が高かった。「図形」では、等しい面積の三角形について記述式で答える問題の正答率が特に低かった。

今年度の結果としては、特に国語について、市・全国との差がある。考えをまとめたり、説明したりする「記述式」「短答式」問題の正答率が低く、「記述する」「書くこと」ことに課題がある。算数については、正答率や傾向も市や全国とほぼ同じ結果となった。基礎的・基本的な学習内容の定着に引き続き取り組むとともに、それらを活用して表現したり説明したりする学習を充実させていく必要がある。

質問紙調査より

「将来の夢や目標を持っている」の肯定的な回答が全国を上回る結果となっていることがあげられる。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については、市・全国と同様の回答傾向にあるが、日々の児童の様子や関係をしっかり把握し、継続して仲間づくりに取り組んでいく。今後も児童が自分を肯定的に評価できるよう教育活動中の他者からの認証や互いの良さを認めあうことができる異学年交流等の機会を設定していきたい。

学習活動については、国語・算数ともに「好き」と答えている児童は多いので、「わかった・おもしろい・できた」とより多くの児童が感じることができる授業づくりに取り組み、「主体的対話的で深い学び」を目指していく。

今後の取組(アクションプラン)

〔国語〕

自分の考えをまとめ友達と交流する場面を(2)中)とするとし、教材をみたり考えの根拠となる箇所

自分の考えをまとめ及理由を交流する場面を設定すること、教材文から考えの根拠となる箇所を引用して発表することなど、相手へ伝える意識をもって自分の考えや思いをまとめ、書き、伝え合う活動を継続する。また、朝学習や読書タイム・本の読み聞かせ等の取り組みを継続する。音読で教材文の理解が深まるよう工夫した指導、児童がよりいっそう漢字に興味・関心を持てるよう工夫した指導や辞書を活用した語彙指導などを継続する。

【算数】

ＴＴや習熟度別少人数指導など個に応じた指導支援を継続し、基礎基本の定着に取り組む。朝の学習時間やITドリルの活用など様々な問題に接する機会を設定し「確実・丁寧・速さ」を児童が意識できるよう工夫する。課題を正確にとらえ、見通しをもって解決方法を探り、筋道立てて説明するプロセスを児童が理解できるよう授業を継続する。また、互いの見通しや考え方を交流しあう学習活動を進めていく。

【児童質問紙】

課題としては、普段の日の家庭での学習時間が、30分に満たない・全くしない割合が学校34.9％・市26.3％・全国16％となっている。また、普段の日の学校以外での読書の時間も、全くしない割合が、学校42.9％・市29.7％・全国24.5％となっており、大きい差がある。家庭学習の大切さを児童が理解し実践できるよう今後も、保護者と連携しながら児童の心身の状況や学習状況の把握に努め、一人ひとりに寄り添った指導支援を進めていく。